

# SEASIDE LIFE

## ヴァカンス気分を 存分に楽しむマイアミの家

マイアミと言えば、アメリカの代表的なリゾート地。セカンドハウスを持ち、週末や長めの休みごとに訪れる人も多い。このアパートメントの主もその一人。マイアミの明るい海の側で、思い切りくつろぎたい。そんな気分の溢れるインテリアが楽しいアパートメントだ。

photos:Steven White original text:Marc Goodman produce:Elizabeth Sverbeyeff Byron



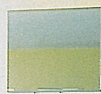
右ページ 壁に掛けたシャツやタオルもインテリアに役立っている。床に置いた額は、この家の写真を友人のアーティストがコラージュしたもの。左ページ 大西洋を見下ろすアパートメントのベランダでくつろぐ主、DD・アレン。小さな公園に面しているのも、ここが気に入った理由のひとつ。



ペールグリーンの壁とターコイズブルーの床の明るく楽しいインテリア



右ページ 仕切りの壁を取り壊し、ベッドルームと一体にしたリビングルーム。左奥のピンクのビニールソファは'40年代のヴィンテージもの。状態が良く、オリジナルの色が残っている。左ページ 奥の床は、せっかくの景色がよく見えるよう、高くしてある。「これだとベッドに寝てもビーチが見えるわよ」。右手のテーブルはエーロ・サーリネンのオリジナル。バルセロナ・チェア風のビニールの椅子2脚は'60年代のもので、マイアミのアンティークショップで見つけたという。左手の意の下にある額が、コンセプチュアル・アートの第一人者、ジョセフ・コッソスの作品。コッソスは彼女の友人でもある。





右ページ 簡単なキッチンコーナー。ステンレスの扉の冷蔵庫があるほかは、ホット・プレートや電子レンジなどが置いてあるだけだ。左ページ もとは独立したキッチンだった所を大胆に改造したゲストルーム。フラダンスの鑑みのでベッドのフレームを隠してあるのは、美しいアイディア。キルトはアレンの妹のお手製。

## 太西洋を見ながら、マイアミの夜を静かに過ごす

「ここは濡れた砂まみれの足のままで入っても全然平気なところなの。なんにも心配することなんかないのよ」

このマイアミのアパートメントの主であるデザイナー・アレンはそう言っていて笑う。彼女はニューヨークをベースに括弧を演奏したり、マルガリタをすすったり、南へ向かう客船を眺めたりしながら、長い週末を過ごす隠れ家だ。

アレンがマイアミにこうした場所を持

つようになったのは10年前のこと。

「ニューヨークが友人たちとヴァカンスにきて、気に入っちゃった勢いで、仲間とビルを2軒買ったしまったの」

ところがそこは海からは少し遠かった。

「もっと海の近くにいたい」と思い始め、出会ったのが、今のオーシャンビューのapartment。それからの彼女の改装は大胆だった。寝室とリビングの間の壁を取り壊し、寝室がっても腰高な窓から海が見えるように、床を一部上げた。そ

うえ、なんとかゲストルームを作るためにキッチンをつぶしてしまった！

「だって、ちゃんとキッチンなんて知らないわ。私が料理に使う道具なんて知れてるから、それだけあればいいの」

キッチンの代わりに、リビングの一角に置いてあるのは電子レンジとホット・プレート、トースターとジュicerが2機。これだけあれば十分なのだ。そのおかげでできたゲストルームのなんとかわいこと。フラダンスの腰みのをはいた

ベッドといい、この家の中にあるのはヴァカンス気分を盛り上げてくれるものばかりだ。日の光を和らげるために選んだビールグリーンの壁と海を思わせるターコイズブルーの床をベースに、明るく柔らかい印象の家具が選ばれ、とんところに置かれたアート作品やキッチンな小物がアクセントになっている。

けれどこの家の特等席は、ソファを造り付けたリビング。ここで大西洋を見ながら、マイアミの夜を過ごすのだ。

